

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500162
法人名	社会福祉法人 はびねす福祉会
事業所名	グループホーム LOHAS・KOTI
所在地	愛媛県新居浜市船木甲2216-39
自己評価作成日	平成25年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日当たりの良い、自然に囲まれた静かな環境にあり、季節を感じながら、穏やかに過ごしていただいている。利用者の一人ひとりの気持や個性に寄り添い、環境を整えることで、その人本来の力が生き活きと発揮できるように努めている。

- 各居室ごとにトイレと洗面台が備え付けられており、ほとんどの方は自室で歯磨きをされている。居室の入り口には、個々にカーネーションや菊等の花を飾っておられ、お華の先生をされていた利用者は、剣山を使ってご自分で活けておられる。
- 利用者がユニット間を行き来することを踏まえて、職員間の情報共有に課題を感じ、新たに、ユニット合同で申し送りすることや、ご家族等からの要望や情報は日誌に書き留めて、申し送り時に担当職員が声を出して読む取り組みを始めておられた。情報共有することで、両ユニットの職員同士で協力し合うような場面も多くなったようだ。
- 手作りおやつの際には利用者が力を発揮したり、意欲ある様子も見られるようだ。管理者は、食事支援を生活リハビリにつなげていきたいと考えておられ、今月10日には、一度、利用者と一緒に昼食を作ることとを予定されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム LOHAS・KOTI

(ユニット名) 東の家

記入者(管理者)

氏 名 越智 賢二

評価完了日 平成25 年 10 月 23 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 職員の共有理念として、「今日一日をその人らしく」・「同じ目線、同じ歩幅でゆっくりと」を目標に、理念がケアに反映されるように意識して取り組んでいる。この理念を玄関やユニット毎に掲示し、来訪者にも分かるようにしている。	
			(外部評価) 今年度の法人スローガン「丁寧」には、「発明、発見」とサブテーマを作っておられ、職員間で事業所での発明や発見を話し合い、2ヶ月ごとに法人内で発表するようになっている。管理者は、今後、日々の申し送り時の機会に、「理念に基づいたケアが実践できているか」ということを職員間で確認できるよう、取り組みたいと考えておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 隣接する母体施設の催しや、地域で開催される行事やお祭りににはできるだけ参加し、地域の方との交流を図っている。また、近隣のスーパーなどを活用している。また、見学の受け入れも積極的に行っている。	
			(外部評価) 秋祭りには、事業所に地域の太鼓台が来てくれている。以前、祭り時に太鼓をたく役割を担っていた利用者が、「太鼓に乗りたい」と希望されると、かき夫の方々が太鼓の面を外して利用者を乗せてくださったこともあった。8月に池田の池を囲む会でラジオ体操が行われた時には、利用者2名が参加して地域の方、小・中学生等と交流された。事業所は、「プライバシー保護」の観点から、ご家族や親戚、入居申し込みを考えている見学者以外の生活スペースへの立ち入りが制限されている。	管理者は、今後、「地域行事に参加して事業所を知ってもらったり、事業所の行事時に案内したり、自治会への協力もできることがあればしていきたい」と話しておられた。利用者が地域とつながりを持って暮らし続けるための環境を作っていくことは、グループホームの支援の特徴でもある。今後さらに、利用者と地域をつなげていく支援に工夫を重ねていかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 問い合わせや電話相談・見学などには、丁寧に対応し、地域の人々が立ち入りやすい場所であることを理解してもらえるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の活動報告や課題などについて意見交換を行い、意見や提案などについては、運営に活かせるように努めている。会議の日程を固定し、参加を呼びかけているが、家族の参加が少ない。	
			(外部評価) 会議時、行事や事業所の現況、又、感染症対策等の報告を行っておられる。又、外部評価結果を報告された際には、「ご家族から意見を出していただけるよう、家族会等を催してはどうか」との意見もいただいた。今後、事業所では、会議時に伝えたいことや話したいこと等の資料を作り、会議をすすめたいと計画されている。すべてのご家族に毎回、会議案内を出しておられるが、仕事の都合等もあって参加いただくことにはつながっていないようだ。	管理者は、会議時に、自治会とのつながりを作ったり、又、ご家族からサービスを利用している意見をうかがったり、地域包括支援センターの専門性を活かしたアドバイス等を期待されている。今後は、会議の時間帯の再検討や新規利用者のご家族には、入居時に会議参加を呼びかけ、ご家族の参加につなげていきたいと考えておられる。今後さらに、いろいろな方達との関係作りに会議を活かしていかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域密着部会の定例会に参加し、市の担当者からの情報や意見を聞く機会を設けている。日常的な相談事項や報告は直接訪問し、担当者に意見を求めるようにし、連携を図っている。	
			(外部評価) 管理者は、地域包括支援センター主催の「地域密着部会」に参加し、事業者と交流されている。介護相談員は、2ヶ月に1回、2名の方が訪問されており、利用者のお話を聞いてくださっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 生活空間は、両ユニットが交流できるように、ユニット間の仕切りを開放している。基本的には玄関の施錠は夜間のみで、日中はすべて開放しているが新規の利用者の状態をみて期間を定めた施錠の検討を行っている。また、いつでも誰でも出入りできる環境にしている。また、身体拘束に関する勉強会を通じて、職員の理解を深めている。	
			(外部評価) 職員会時に、年1回は身体拘束の勉強会を行っておられる。ベッドから立ち上がる際、転倒の心配がある利用者のご家族から、「縛ってくれてもよい」等の発言があったこともあり、管理者は、ご家族に「拘束しない支援の大切さ」について説明されたこともある。ご家族には、畳に布団を敷いて様子を見ることを提案し支援されている。各居室にはセンサーマットが設置されており、ベッドからの立ち上がり時にブザー音が鳴ったり、パソコンと連動しており職員が分かるようになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待について、職員の共有認識が図れるように、研修を行っている。職員の関わり方が利用者の気持ちを抑圧していないか、ケース会などを通じて振り返る機会をもっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、具体的な事例は無いが、利用者の権利を守るために必要な制度として認識し、勉強会を通じて制度への理解を深めるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前に、重要事項の説明を十分行い、リスク等についても、利用者やご家族に十分理解していただいたうえで、契約書を交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などに、ご家族の意見や思いを汲み取る機会を設けている。個人個人の連絡ノートを作成し交流を図っている。利用者の誕生日には、ご家族と一緒に食事を楽しんでお祝いする会を設けたり、行事に参加してもらおう等、日頃から話しやすい雰囲気作りを心がけている。意見や提案が運営に反映されるように前向きに検討している。 (外部評価) 管理者は、「ご家族と一緒に利用者を支えていきたい」と考えておられ、ご家族との連絡を密に取るようにされている。又、2ヶ月に1度、行事写真に利用者個別に様子を書き添えたお便りを送付されている。ご家族の来訪時や遠方のご家族には、電話で利用者の近況を報告し、「何かご希望やご意見ないですか」と聞いておられる。居室入り口には、写真と連絡帳を置いておられ、ご家族に意見等を連絡帳に書いていただけるよう話しておられる。	ご家族は「今まで通りで」と言われる方が多いようで、管理者は、「ご家族の声が聞けていないのではないか」と感じておられる。さらに、ご家族同士が交流する機会や、一緒に活動する等して、気付いたことを言ってもらえるような機会を作ってみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回の職員会では、意見交換や様々な課題の検討を行い、職員の意見や提案が運営に反映できるように前向きに検討している。	
			(外部評価) 盛り付けの量が多いと食欲が出ないような利用者もおられ、職員からの提案で小さめの食器を使用することを試みられた。その機会に、他利用者の食事量等についても適量か点検された。利用者がユニット間を行き来することを踏まえて、職員間の情報共有に課題を感じ、新たに、ユニット合同で申し送りすることや、ご家族等からの要望や情報は日誌に書き留めて、申し送り時に担当職員が声を出して読む取り組みを始めておられた。情報共有することで、両ユニットの職員同士で協力し合うような場面も多くなったようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員の勤務状況や実績を把握しており、職員一人ひとりが意欲をもって働ける職場の環境に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内外の研修に、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。研修内容は、職員会や閲覧などで報告する機会を設け、実践につなげている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域密着部会の定例会での勉強会や意見交換を行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人やご家族からの要望や、出来る事、できない事を把握し、サービス内容をできるだけ一緒に考えるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との事前の話し合いの中で、家族の思いを汲み取り、理解していくことで、家族との関係を築くように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やご家族と話し合い、状況を把握しながら、必要と思われる支援を見極めるように努めている。福祉用具や、医療系サービスについても、そのニーズに応じて利用してもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者それぞれの残存機能を活かしながら、役割を持って生活し、職員とも協働しながら、喜びを共に味わい支え合えるような関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者と家族の関係を理解し、報告や相談を密に行いながら、良い関係が無理なく継続できるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) これまで本人を支えてくれている家族等からの手紙や外出支援、面会などがある。家族の支援で自宅に日中戻られたり、よく帰省していた遠方の娘宅へ外泊された方もいる。入居前から習っているピアノのレッスンを、引き続き利用できるようにしている。 (外部評価) 月2回ご自宅へ帰って、好きな魚料理を楽しまれる利用者もいる。又、ピアノの先生がレッスンの送迎をしてくださり、ピアノを習うことを続けている方もいる。ご家族や親戚の方が来られた時には、ゆっくり過ごしてもらえようように居室へ案内し、利用者の近況をお伝えしたり、お茶等を出したり、気配りされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性がうまくいくような、働きかけを職員は行い、共に過ごす事が楽しみとなるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 次のサービスを探したり、情報などを関係者に引き継ぐ等の支援を行っている。契約終了時には、いつでも相談に応じることを伝えている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、本人の言動を良く観察し、表情やしぐさからも伝えたい思いを感じとったりするように努めている。 (外部評価) 日頃の利用者のお話やご家族からの情報は、業務日誌や24時間シートに記録して、申し送り時にすべての職員で確認されている。利用者が、「声を出す体操がしたい」と話された時には、職員で話し合い、レクリエーションに「早口言葉」を採り入れられた。又、「今は柿ができるね」と話されたことをきっかけに、みなで干し柿を作ったこともある。職員は、法人内で頻繁に異動があり、法人では、記録様式を来年3月をめどに、「24時間シート」に統一して、利用者のことを知るための様式を統一する予定となっている。利用者個々がご本人らしく暮らし続けられるような支援に向けて、情報共有や思いの把握には、今後もさらに配慮や工夫を重ねていかれてほしい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の生活歴やサービス利用に至った経過など、家族や本人からの聞き取った情報をもとに、本人を知るような取り組みを行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを職員は把握し、個別ケアに努めている。職員が一緒にやってみるような場面をつくり、出来る事を見出している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			介護計画は、本人や家族の希望や意向をとりいれ、六ヶ月から三ヶ月に一度見直しを行っている。月2回ケース会を開催しモニタリングを実施。状態変化や入院等に応じて、職員の意見を参考に修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			今までは、排せつや口腔ケア、爪切り、又、利用者の一日の生活の様子等を記録する「生活記録」と、モニタリングの様式を別にされていたが、10月から1枚で記録できるように新しくされた。職員は見やすく、計画に沿った支援に取り組みやすくなったようだ。管理者は、計画作成の際には、ご家族に参加していただきたいと声かけをされたようだが、「今まで通りそちらで」というご家族もおられたようだ。管理者は、日にち等も検討して再度お願いしたいと話しておられた。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人や家族の状況に応じて、通院や外出支援など、出来る限り柔軟に対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			本人の希望に応じて、地域の理美容サービスを利用したり、訪問してもらったりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所前からのかかりつけ医の場合は、受診介助は家族に依頼している。状況に応じ、職員が対応している。受診結果は記録し、家族と共有している。訪問診療にきてもらうケースもある。	
			(外部評価) ほとんどの利用者は、かかりつけ医を受診されており、ご家族が付き添いをされている。緊急時やご家族が遠方に住む場合は、職員が付き添われている。往診を希望される方には、協力医を紹介して月に2、3回の往診を受けておられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者の日々の健康状態を把握し、異常の早期発見に努め、状態変化は、直ちに看護師に相談。適切な受診につなげている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 家族や医療機関との連携や情報交換を行い、早期退院に向け受け入れ体制を整えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時には、事業所の方針を説明している。利用者の状態変化に伴い、常に家族の意向も確認しながら、事業所でできる支援について説明している。また、重度化しても対応できるように入浴設備を整えた。	
			(外部評価) 事業所では、看取り指針をもとに、できること、できないことを、利用契約時に説明しておられる。これまで看取りの事例はないが、現在、「このままこちらで見てほしい」とのご家族からの希望がある。利用者に持病もあることから、ご家族と医師との話し合いで、かかりつけ医が医療面のサポートをしてくださることになった。事業所では、看護師資格を持つ職員を中心に持病について勉強会を行い、知識を深められた。AEDの使い方の講習は、職員全員が受けておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員会等で、定期的に応急手当や、緊急時の対応マニュアルについて勉強し、職員間で周知できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日中や夜間を想定して、避難訓練を利用者とともにやっている。地域との協力体制はまだ構築されていない。今後は地震や水害などの具体的災害を想定して、必要な訓練の実施に努めたい。 (外部評価) 年に2回、消防訓練を行っておられる。内、1回は消防署の協力を得て訓練を行われている。いざという時には、近くの法人介護施設からの協力が得られるようになっている。事業所には、利用者の1週間分の食料を備蓄されている。管理者は、今後、地域住民との関係づくりに取り組み、協力体制を作り、緊急連絡網の整備についても検討したいと考えておられた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーに配慮した、言葉かけや姿勢を心がけ、職員間で利用者一人ひとりの対応について確認している。 (外部評価) 調査訪問時には、利用者が食後に下膳された時、職員は、「ありがとうございます」と感謝の言葉を伝え、利用者は、「こちらこそありがとう」と返答される等、和やかなやり取りが多くみられた。職員は、利用者の状態等について話す際には、利用者等がいないところで話すことに気を付けておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態に合わせ、本人の希望が選択できるような場面作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の生活の流れに添った中で、一人ひとりのペースを大切にその日の体調に応じた対応を心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の化粧品購入や、馴染みの美容院で希望に合わせた、カットや毛染めを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 普段は、隣接施設からの配食で、利用者に食事の準備や後片付けなどを手伝ってもらっている。職員もともに食事をし、楽しく食事が出来るように心がけている。月に数回は、お誕生会や行事にて利用者と一緒にケーキを食べたりおやつ作りをしている。 (外部評価) 食事は、法人の介護施設から届き、事業所で盛り付けをされている。事業所で食事を作る機会は少ないが、時には、朝食やおやつを作ることもある。その際には、利用者ほもやしの根取りやピーラーで野菜の皮むき等をしている。料理中に、包丁で手を切ってしまった利用者がおられたようだが、利用者の希望を大切に、ご家族と話し合い、その後も包丁を使って料理にかかわれるよう支援されている。調査訪問時、職員は利用者に食器洗いをお願いされると、利用者は、「やるよ。主婦やけんね」と張り切って台所に立たれた。食後に、下膳、台ふき、ランチョンマットをたたむ等をされる方も多い。	手作りおやつの際には利用者が力を発揮したり、意欲ある様子も見られるようだ。管理者は、食事支援を生活リハビリにつなげていきたいと考えておられ、今後、10日に一度、利用者と一緒に昼食を作ることを予定されている。利用者が楽しみにされている食事を、さらにおいしく楽しく支援できるような工夫を重ねていかれてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量や水分量を記録し把握している。摂取できにくい利用者には、食事形態を変更したり、トロミをつける等の工夫をして、適切に対応している。できるだけ自分で食べてもらうようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨き・うがいの声かけを行っている。個々の状態に合わせ、見守り・声かけ・介助を行い、確認を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表を活用しながら、個々の習慣や排泄パターンを把握し、さりげなく誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 24時間シートに、「排せつの時間」「回数」「便の量」を記録されている。便の量は、「バナナ1本分」等、バナナの形状で示されている。シートで傾向を探り、排泄の失敗が少ない方には、パッドを外したり、利用者の状態によっては、布パンツにパッドを使用する等して、昼間はなるべくトイレで排泄できるような支援に努めておられる。不快感がないように、ホットタオルで拭いたり、クリームやワセリンで保湿する等して、細やかなケアに取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 屋内外への散歩や体操を行い、身体を動かす機会を設け自然排泄できるように努めている。また、水分補給や、乳製品等をおやつに取り入れるなど工夫している。	
			(外部評価) 本人の気持ちに添うように対応し、一人ずつゆっくりと入浴してもらおうようにしている。入浴を嫌がる方にはタイミング良く声かけを行い、スムーズに入浴できるように支援。血行促進の為、入浴以外で足浴を実施している方もいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の気持ちに添うように対応し、一人ずつゆっくりと入浴してもらおうようにしている。入浴を嫌がる方にはタイミング良く声かけを行い、スムーズに入浴できるように支援。血行促進の為、入浴以外で足浴を実施している方もいる。	
			(外部評価) 浴室は二つあり、一つは可動式の家庭用浴槽で、滑り止めマットを敷いて使用されている。もう一つは、今年の春に、車いすの方でも入浴しやすいよう、法人の機械浴槽を譲り受け設置されている。入浴を拒む方に職員は、好きな歌と一緒に歌ったり、歌に合わせて踊る等しながら入浴につなげることもあるようだ。利用者が「洗い上がりがさっぱりする」と感想を話されたことから、ユニットによっては固形石鹸を使用されていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、なるべく活動を促し、本人の状態に合わせてゆっくり休息できるように支援している。また、夜間眠れない時には、一緒にお茶を飲んだり、会話するなど、安心して眠れるように配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の薬の内容が把握できるように、個人ファイルに処方内容をまとめ、職員全員が情報を確認できるようにしている。飲み忘れや誤薬のないように個々の薬袋で管理し、服薬確認もチェックしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で、掃除や食器の後片付け、洗濯たたみなどの役割を持ってもらっているが、徐々に出来る方がも少なくなっている。しかし、写経、プランターで花や野菜を育てるなど職員とともに楽しみながら実施している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節ごとの外出や、個別の外出や散歩の支援を職員や家族の協力を得ながら実施している。重度の方も車椅子で中庭を散歩し、外気に触れるようにしている。 (外部評価) 事業所近くの池田池の菖蒲や紅葉の中を散策したり、法人の車を借り、数名ずつでマイントピアに芍薬を見に行かれる等されている。出かけた先で、他法人のデイサービスの利用者や職員と出会い、「元気にしょってよ」等と声をかけ合うような場面もあるようだ。複数の利用者は、ご家族と外出する機会が頻繁にあり、調査訪問時にもお嫁さんと食事に出かけていかれる様子がみられた。	もっと出かけたいと希望する利用者もおられ、管理者は今後、月に1回等、定期的な外出支援にも取り組み、「生活のメリハリ」を作っていきたいと考えておられた。事業所は高台に位置しており、歩いて地域の方と交流することに難しさもあるが、地域に出かけて行く機会を積極的に作り、利用者の暮らしの拡がりを支援していかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者がお金を所持したり、使う事への積極的支援は行えていないが、金銭管理ができる方には、自己管理をしてもらい、買い物などでご自身で支払えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じて、電話をかけられるように支援している。また、絵葉書などで近況をお知らせしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感のある飾りつけや、作品などを利用者と一緒に作りしている。毎月環境整備を行い、利用者にとって居心地の良い環境に努めている。リビングでは、懐メロや唱歌などの音楽を流している。	
			(外部評価) 事業所内は、天井は高く、開放感のある造りとなっている。観葉植物を各所に配し、内装はいろいろな色を使用されており、絵画や利用者の作品等も飾られていた。床暖房のフロアには、加湿器が2～3台設置されており、湿度に配慮されていた。中庭も広く取っており、利用者は散歩されたり、ベンチやテーブルで季節の木々等を眺めながら、お茶を楽しまれることもある。又、ブルーベリーや栗、キンカンを収穫してジャムや栗ごはんを楽しまれている。共用空間は、毎朝、職員が2時間ほどかけて清掃を行い、きれいに保たれている。時には、利用者と一緒にモップかけ等をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者同士の座席の配慮や、リビングや中庭等で、思い思いにくつろげる場所がある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や家族写真、花、好きな芸能人のポスターなどを飾られている。自宅から、仏壇やパチンコ台やピアノを持ってこられている方もいて、安心感や満足感の支援につながっている。	
			(外部評価) 各居室ごとにトイレと洗面台が備え付けられており、ほとんどの方は自室で歯磨きをされている。居室の入り口には、個々にカーネーションや菊等の花を飾っておられ、お華の先生をされていた利用者は、剣山を使ってご自分で活けておられたり、母の日にご家族から贈られた蘭を大切にされている方も見られた。ご家族から「自宅では畳の生活だったので、畳を使用してほしい」と希望があり、畳敷きの居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者のできる事、わかる事を活かし、各居室には名前や目印をつけ、環境面を工夫している。また、利用者同士助け合ったり、職員も見守り支援しながら、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。	